| 科目名 | 単位数(時間数) | 開講時期 | 担当講師 | 実務経験 |
|---|---|---|---|---|
| 小児看護学概論 | 1単位(30) | 1年次7月 | 専任教員 | あり（看護師） |

科目目標：

1 小児の特徴と小児看護の概念を理解する。

2 小児保健統計を踏まえ、小児を保護する法律や保健対策を理解する。

| 授業回数 | 授業計画 | 授業方法 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 1回 | 1 小児の特徴や成長・発達<br>(1)小児期の年齢区分<br>(2)小児の特性<br>①小児の特徴<br>②小児期の発達課題 | 講義 | 専任教員 |
| 2回<br>3回<br>4回<br>5回<br>6回<br>7回 | (3)成長・発達<br>①成長・発達の原則<br>②成長・発達の影響因子<br>③形態的成長・機能的発達<br>④心理・社会的発達<br>⑤小児の栄養<br>⑥成長・発達の評価　⑦保育園見学 | 講義<br>見学 | |
| 8回 | 2 小児看護の概念<br>(1)小児看護の変遷<br>(2)小児看護における倫理<br>①小児医療と子どもの人権<br>②子どもと家族を取り巻く社会の変化 | 講義 | |
| 9回 | ③子どもの人権と権利擁護<br>a 児童憲章<br>b アドボカシー<br>c 児童の権利に関する条約<br>④小児看護と倫理的配慮<br>a インフォームド・アセント | 講義 | |
| 10回 | (3)小児と家族の看護の概念<br>①小児看護の特徴　②小児看護の目的<br>③未熟児養育医療と自立支援医療<br>④小児看護の課題と展望 | 講義 | |
| 11回 | 3 小児の健康指標と保健対策<br>(1)小児保健統計<br>①出生率　②乳児死亡　③小児死亡<br>④小児の疾病・異常罹患率　⑤死亡原因　⑥子どもの事故 | 講義 | |
| 12回 | (2)小児を保護する法律<br>①児童福祉法　②児童虐待の防止等に関する法律<br>③母子保健法　④予防接種法<br>⑤学校保健安全法 | 講義 | |
| 13回 | (3)小児を保護する保健施策<br>①健やか親子21　②子ども・子育て支援法　③少子化対策<br>④未熟児養育医療　⑤自立支援医療 | 講義 | |
| 14回 | 4 小児を取り巻く現代社会の諸問題<br>(1)小児を取り巻く諸問題とその対応<br>①虐待　②生活習慣病　③育児不安 | 講義 | |
| 15回 | 修了認定試験：筆記試験100点<br>60点以上を合格とする。（修了認定等に関する規定第4条参照） | 筆記試験（1h）<br>自己学習時間（1h） | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院<br>看護実践のための根拠がわかる小児看護技術　メヂカルフレンド社 | | |

| 科目名 | 単位数(時間数) | 開講時期 | 担当講師 | 実務経験 |
|---|---|---|---|---|
| 小児の発達段階に応じた看護 | 1単位(15) | 2年次4月 | 専任教員 | あり(看護師) |

科目目標:

1　小児各期の日常生活を理解し、その援助方法を理解する。小児の特徴と小児看護の概念を理解する。

| 授業回数 | 授業計画 | 授業方法 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 1回<br>2回 | 1　新生児・乳児とその家族への看護<br>(1)新生児・乳児の健康増進と安全のための看護および　乳児のいる家族へ の看護<br>①日常生活の世話<br>a 授乳・食事　b 睡眠<br>c 清潔　d 衣服<br>②家族関係の調整　③遊びへの支援　④事故防止<br>⑤感染予防　⑥育児支援 | 講義 | 専任教員 |
| 3回<br>4回 | 2　幼児とその家族への看護<br>(1)幼児の健康増進と安全のための看護<br>①幼児のいる家族への看護<br>a 基本的生活習慣の確立<br>b 運動と遊びへの支援<br>c 予防接種<br>d 事故防止<br>e 家族指導<br>f 育児支援 | 講義 | 専任教員 |
| 5回 | 3　乳幼児の日常生活援助技術<br>(1)乳児の抱き方<br>(2)衣服の着脱とおむつ交換(陰部の清潔の保持)<br>(3)子どもとの遊びとコミュニケーション<br>(4)おもちゃを用いた援助 | 校内実習 | 専任教員 |
| 6回 | 4　学童とその家族への看護<br>(1)学童の健康増進とセルフケアの発達<br>①学童のいる家族への看護<br>a 食生活と食育<br>b 学校への適応<br>c 学校保健<br>d 学習と遊び<br>e 生活習慣病の予防<br>f 性教育<br>g 事故予防<br>h 学童の情緒と家族の関係 | 講義 | 専任教員 |
| 7回 | 5　思春期にある子どもと家族の看護<br>(1)思春期小児の健康増進とアイデンティティの確立<br>①思春期小児のいる家族への看護<br>a セルフケアと保健教育<br>b 食生活と食育<br>c 親からの自立<br>d 異性への関心・性感染症<br>e 子どもを取り巻く社会環境<br>f 子どもが持ちやすい問題行動・家族機能 | 講義 | 専任教員 |
| 8回 | 修了認定試験:筆記試験100点<br>60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照) | 筆記試験(1h) | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院<br>看護実践のための根拠がわかる小児看護技術　メヂカルフレンド社 | | |

| 科目名 | 単位数(時間数) | 開講時期 | 担当講師 | 実務経験 |
|---|---|---|---|---|
| 小児の健康状態に応じた看護 | 1単位(30) | 2年次6月 | 外部講師 | あり(看護師) |
| | | | 専任教員 | あり(看護師) |

科目目標:

1．病気や入院が小児と家族に与える影響と援助を理解する。
2．様々な健康状態にある小児と家族の看護を理解する。
3．検査・処置が小児と家族に与える影響と援助を理解する

| 授業回数 | 授業計画 | 授業方法 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 1回 | 1　小児の入院環境<br>(1)人的環境・物理的環境　(2)安全管理<br>(3)病院における子どもの権利<br>※教育を受ける権利 | 講義 | 専任教員 |
| 2回<br>3回 | 2　病気や入院が小児と家族に与える影響<br>(1)小児のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ　(2)病気の理解<br>(3)影響に伴うストレスと対処反応<br>(4)家族への影響<br>(5)影響を最小限にするための援助<br>①プレパレーション　② ディストラクション | | |
| 4回 | 3　検査・処置を受ける子どもと家族への看護<br>(1)発達に応じた説明と同意<br>(2)検査処置の前・中・後の観察と安全安楽への援<br>①採血　②採尿　③骨髄穿刺<br>④ 腰椎穿刺　⑤ 与薬　⑥輸液療法<br>⑦ 輸液療法　⑧ 吸入・吸引　⑨ 酸素療法 | | |
| 5回<br>6回 | 校内実習<br>(1)バイタルサイン測定<br>(2) 輸液の準備、実施、<br>観察(おくるみ法、シーネ固定法含)<br>(3)経口与薬 | 校内実習 | 専任教員<br>外部講師<br>(看護師) |
| 7回<br>8回<br>9回 | 4　急性状態にある小児と家族の看護<br>(1)発熱時の看護　(2)発疹時の看護<br>(3)脱水時の看護　(4)呼吸困難時の看護<br>(5)けいれん時の看護　(6)生命徴候が危険な状況時の看護<br>5　長期的経過をたどる疾患をもつ小児と家族の看護<br>(1)小児慢性特定疾病対策　(2)病気の時間的経緯と急性増悪<br>(3)小児と家族の生活の変化<br>(4)長期的治療を要する小児の発達とセルフケア<br>(5)家族のストレス緩和・対処支援 | 講義 | 専任教員 |
| 10回 | 6　在宅医療や通院治療を受ける小児の看護<br>(1)外来における小児の看護<br>(2)入院生活から在宅移行に向けた支援<br>(3)在宅療養中の小児と家族の看護<br>①在宅療養中の小児と家族の特徴 | | |
| 11回 | 7　災害時の小児と家族の看護<br>(1)被災地の環境と看護の役割　(2)災害による子どもへの影響 | | |
| 12回<br><br><br><br>13回 | 8　先天的な疾患をもつ小児と家族の看護<br>(1)先天異常の種類と特徴　(2)家族の理解と小児の受容への看護<br>(3)養育に必要な家族の心理的準備とケア<br>(4)技術獲得への援助<br>9　心身障害のある小児と家族の看護<br>(1)心身障害の種類と定義　(2)心身障害の受容<br>(3)小児と家族の日常生活支援と社会資源の紹介 | | |
| 14回 | 10　終末期にある小児と家族の看護<br>(1)小児の死の概念　(2)死の不安と別離の不安<br>(3)小児への病気の説明　(4) 終末期にある小児の状態と緩和ケア<br>(5)小児の死を看取る家族へのケア | | |
| 15回 | 修了認定試験:筆記試験100点<br>60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照) | 筆記試験(1h)<br>自己学習時間(1h) | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学各論　小児看護学②　医学書院<br>看護実践のための根拠がわかる小児看護技術　メヂカルフレンド社 | | |

| 科目名 | 単位数(時間数) | 開講時期 | 担当講師 | 実務経験 |
|---|---|---|---|---|
| 治療を受ける小児の看護 | 1単位(30) | 2年次6月 | 外部講師 | あり(医師・看護師) |
| | | | 専任教員 | あり(看護師) |

科目目標:
1.病気や入院が小児と家族に与える影響と援助を理解する。
2.様々な健康状態にある小児と家族の看護を理解する。
3.検査・処置が小児と家族に与える影響と援助を理解する

| 授業回数 | 授業計画 | 授業方法 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 1回 | 1 小児疾患を持つ患児のアセスメントに必要な、主な疾患の病態、診治療の病態、診断、治療の基礎<br>(1)先天性疾患の病態生理、検査、治療<br>①先天性心疾患、染色体異<br>②先天性股関節脱臼　口蓋裂 | 講義 | 外部講師(医師) |
| 2回 | (2)小児特有の疾患の病態生理、検査、治療<br>①てんかん、脳性麻痺<br>②発達障害<br>③自閉症<br>④ADHD | 講義 | 外部講師(医師) |
| 3回 | ⑤糖尿病(Ⅰ型糖尿病)<br>⑥川崎病<br>⑦ネフローゼ症候群<br>⑧肥厚性幽門狭窄症 | 講義 | 外部講師(医師) |
| 4回 | 2 救急処置を要する小児と家族の看護<br>(1)主な誤飲物質と処置<br>(2)熱傷の特徴・重傷度及び処置<br>(3)溺水と処置 | 講義 | 外部講師(医師) |
| 5回 | (4)心肺蘇生法<br>(5)乳幼児の意識レベル<br>(6)小児と家族の不安の緩和 | 講義 | 外部講師(医師) |
| 6回 | 3 隔離が必要な小児と家族の看護<br>(1)隔離の対象と方法<br>(2)身体的・心理的・社会的影響<br>(3)感染予防と日常生活への援助<br>(4)面会・付き添い時の指導と支援 | 講義 | 外部講師(看護師) |
| 7回<br>8回<br>9回 | 4 手術を受ける小児と家族の看護<br>(1)手術を要する健康障害<br>(2)計画手術と緊急手術(鎖肛、食道閉鎖)<br>(3)日帰り手術<br>(4)準備状態の把握とプレパレーション<br>(5)周手術期の援助<br>(6)退院指導・継続看護<br>5 痛みのある小児と家族の看護<br>(1)痛みの受け止め方<br>(2)痛みの表現方法<br>(3)痛みの客観的評価<br>(4)痛みの緩和への援助<br>6 活動制限が必要な小児と家族の看護<br>(1)活動制限の目的　(2)身体的・心理的・社会的影響 | 講義 | 外部講師(看護師) |
| 10回<br>11回<br>12回<br>13回<br>14回 | 7 事例を用いた様々な状況に応じた看護の展開<br>(1)発達段階、疾患の状況などを含めた事例提示)<br>(2)事例展開<br>(3)対象の把握<br>①健康状態　②成長・発達　③家族<br>(4)アセスメントの視点<br>①発達段階　②基本的生活習慣の自立<br>③病気や入院が小児、家族に及ぼす影響<br>(5)問題の明確化<br>(6)計画立案<br>①成長発達を考慮した計画<br>② 家族への援助を含めた計画 | 講義<br>演習 | 専任教員 |
| 15回 | 修了認定試験　:筆記試験70点　レポート30点<br>60点以上を合格とする。(修了認定等に関する規定第4条参照) | 筆記試験(1h)<br>自己学習時間(1h) | |
| 使用テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院<br>系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学各論　小児看護学②　医学書院<br>看護実践のための根拠がわかる小児看護技術　メヂカルフレンド社 | | |